

人権講演会

「戦後 80 年 被爆者体験を語り継ぐ」



- 講師：くどう たけこ **工藤 武子** さん
(熊本県原爆被害者団体協議会)
- 演題：「原爆被害のはなし」
～今私が伝えたいこと～

期日 2025年12月9日(火)

【蘇陽地区】

時間：午前9時30分～

場所：蘇陽営農センター
大研修室

【清和地区】

時間：午後2時00分～

場所：清和山村基幹集落
センター 大研修室

工藤武子（くどう たけこ）さん（87）は、7歳の時に、長崎市で、爆心地の南東3キロの自宅で被爆しました。

2023年、長崎での平和記念式典で、被爆者を代表して「平和への誓い」を読み上げ世界に核兵器廃絶を訴えました。現在は熊本で紙芝居などを通じて核兵器の恐ろしさを伝えていきます。

武子さんが体験を語り始めたのは、被爆から63年後の2008年。他の被爆者が話す様子を見て「自分にも伝える責任がある」と感じたことがきっかけでした。

世界に目を向けると、去年12月には日本原水爆被害者団体協議会（被団協）がノーベル平和賞に選ばれました。しかし各地で戦争や紛争が相次ぎ、ロシアやイスラエルなどが核兵器による威嚇を続ける中、被爆者は危機感を募らせています。

武子さんは、「無関心であること、人ごとと思うこと、忘れることが核兵器使用や戦争に近づくことだと思う」「証言が直接聞ける時間は残り少ないからこそ、核兵器が再び使われると熱線や爆風で一度にたくさんの命を奪うことはもちろん、その後、何十年も多くの人を放射線で苦しめる事実をしっかりと聞いてほしい。」と訴え、講演活動を続けられています。

お問い合わせ先：山都町教育委員会 生涯学習課（電話72-0443）